

【第2版】



緊急連絡/安否確認システム

エマージェンシーコール

情報管理ポータルシステム

BCPortal®



新型コロナウイルス対策

11年前に何が起こったのか？ 2009年の新型インフルエンザ
大流行を当時の当社発行レポートで振り返る

2020年1月31日

インフォコム株式会社

モバイルクラウド事業部

本資料は2020年1月27日現在の
情報を元に作成しています。

状況は変わっていきますので下記のサイトなどを参考に最新情報をご確認ください。

WHO <https://www.who.int/>

厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

東京都防災ホームページ <https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/>

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/>

目次

内閣官房、及び厚生労働省のメッセージ

◆はじめに

◆2020年新型コロナウイルスの状況

- ・海外の発生状況について(1/27現在)
- ・日本国内の発生状況について(1/26現在)

2009年の新型インフルエンザ発生時のエマージェンシーコール[®]ユーザーの対応

◆2009年新型インフルエンザの状況と対応の振り返り

- ・ 2009年の新型インフルエンザ概要
- ・ 4つのステージ(家庭、通勤、職場、得意先)のアクション
- ・ 導入各社の新型インフルエンザ対応
- ・ 各社の評価

◆考察

◆Facebookグループのご案内

内閣官房、及び厚生労働省のメッセージ

◆国民の皆様へのメッセージ◆

○新型コロナウイルス感染症の現状からは、中国国内では人から人への感染は認められるものの、我が国では人から人への持続的感染は認められていません。

国民の皆様におかれては、過剰に心配することなく、季節性インフルエンザと同様に咳エチケットや手洗いなどの感染症対策に努めていただくようお願いいたします。

○武漢市から帰国・入国される方におかれましては、咳や発熱等の症状がある場合には、マスクを着用するなどし、事前に医療機関へ連絡したうえで、受診していただきますよう、御協力をお願いします。

また、医療機関の受診にあっては、滞在歴があることを事前に申し出てください。

2020/01/27 厚生労働省ホームページより

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

はじめに

令和で初めての新年を迎えましたが、連日の報道では多くの時間を割きまして、中国武漢市での新型肺炎のニュースが頻繁に流れています。

前ページの政府発表のとおり、「過剰に心配することなく、季節性インフルエンザと同様に咳エチケットや手洗いなどの感染症対策に努めていただくようお願いいたします。」というメッセージのとおり通常の風邪、インフルエンザ対応をしっかりと行うことが重要のようです。

11年前の2009年に新型インフルエンザが世界中で大流行しました。

当時のことを覚えている方も多くいらっしゃるのではないかと思います。

国内でも1918年に大流行した「スペイン風邪」(感染者6億人、死者5千人といわれる)との比較などの報道から混乱状況に(マスクは店からなくなり、インフルエンザワクチンは基礎疾患患者、医療従事者、妊婦の優先接種、ワクチンを孫のために用意した医師がニュースで批判的、など)。

当時インフォコムでは、この新たなリスクに対応すべく、ユーザーヒアリングを中心に情報を収集し、ご利用企業様向けに緊急レポート「2009年 新型インフルエンザ発生でのエマージェンシーコール®活用事例 Ver.4 -2009年8月-」を発行していました。

本書では2009年の新型インフルエンザの状況を振り返り、感染症リスクに関して考察したいと思います。

今回の新型肺炎でのリスクマネジメントが混乱なく実施されるお手伝いが出来れば幸甚です。

2020年1月

インフォコム株式会社

モバイルクラウド事業部

海外の発生状況について

・海外の国・地域の政府公式発表に基づく、日本国外で新型コロナウイルス関連の肺炎と診断されている症例及び死亡例の数は以下のとおり。

- ・中国、感染者2,744名、死亡者80名。
- ・タイ、感染者8名、死亡者0名。
- ・韓国、感染者4名、死亡者0名。
- ・台湾、感染者4名、死亡者0名。
- ・米国、感染者5名、死亡者0名。
- ・ベトナム、感染者2名、死亡者0名。
- ・シンガポール、感染者4名、死亡者0名。
- ・フランス、感染者3名、死亡者0名。
- ・オーストラリア、感染者4名、死亡者0名。
- ・マレーシア、感染者4名、死亡者0名。
- ・ネパール、感染者1名、死亡者0名。
- ・カナダ、感染者1名、死亡者0名。

(参考)コロナウイルスとは？

国立感染症研究所 ヒトに感染するコロナウイルス:

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc/2482-2020-01-10-06-50-40/9303-coronavirus.html>

中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎について(令和2年1月27日版) 厚生労働省ホームページより

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09120.html

日本国内の発生状況について(1/26現在)

1例目の感染者:

- ・既に**軽快**(外出時はマスク着用)。
- ・濃厚接触者に関しても**健康観察終了**。

2例目の感染者:

- ・中華人民共和国湖北省武漢市在住の旅行者、日本滞在中はほぼ常に部屋に滞在しており、移動時にはマスクを着用していたとのこと。
- ・濃厚接触者2名を特定し、健康観察を実施しているが、**感染者は確認されていない**。

3例目の感染者(1/25):

- ・武漢市在住。
- ・**移動時にはマスクを着用していたとのこと**。

4例目の感染者(1/26):

- ・武漢市在住、発熱はあるものの容態は安定している。
- ・**移動時にはマスクを着用していたとのこと**。

その他

この他、海外で発生した感染者の接触者として3名が特定されており、**25日に出国予定**。



緊急連絡/安否確認システム

エマージェンシーコール

情報管理ポータルシステム

BCPortal[®]



2009年の新型インフルエンザ発生時の エマージェンシーコール[®]ユーザーの対応

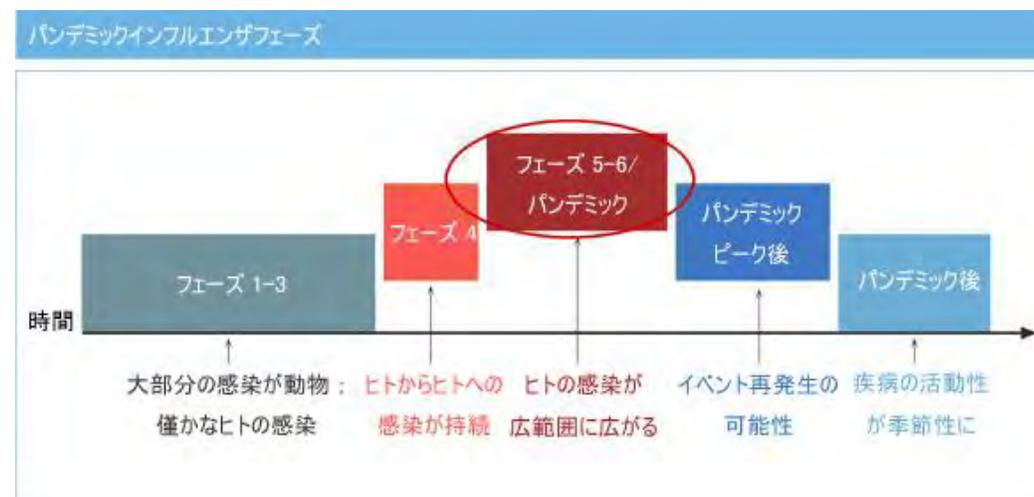
11年前に何が起きたのか？ 2009年の新型インフルエンザ
大流行を当時の当社発行レポートで振り返る

2009年 新型インフルエンザ

経緯 パンデミックインフルエンザ(H1N1)2009年

- ◆ 4月12日: メキシコ・ベラクルスの町で発生した原因不明の呼吸器感染症集団発生が WHOに報告。
- ◆ 4月15・17日: アメリカ・カリフォルニア州南部の子ども二人から新型インフルエンザウイルスが分離。
- ◆ 4月23日: メキシコでも新型インフルエンザ患者を確認。
- ◆ 4月24日: WHO 国際保健規約に基づき国際緊急事態を宣言。
- ◆ 4月27日: WHO 人-人感染が容易に起こり、感染が拡大するとして「フェーズ4」宣言。
- ◆ 4月29日: WHO 2カ国以上で感染が拡大、「フェーズ5」宣言。
- ◆ 6月11日: WHO の複数の地域に感染が拡大、パンデミックは不可避として「フェーズ6」宣言。

わずか9週間で全てのWHO地域に感染が拡大



214の国と地域で感染を確認、死亡者数は18097人以上(2010/5/21現在)

2010/5/28「2009年インフルエンザパンデミック(H1N1) その広がり与健康被害」WHO資料より
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/dl/infu100528-02.pdf>

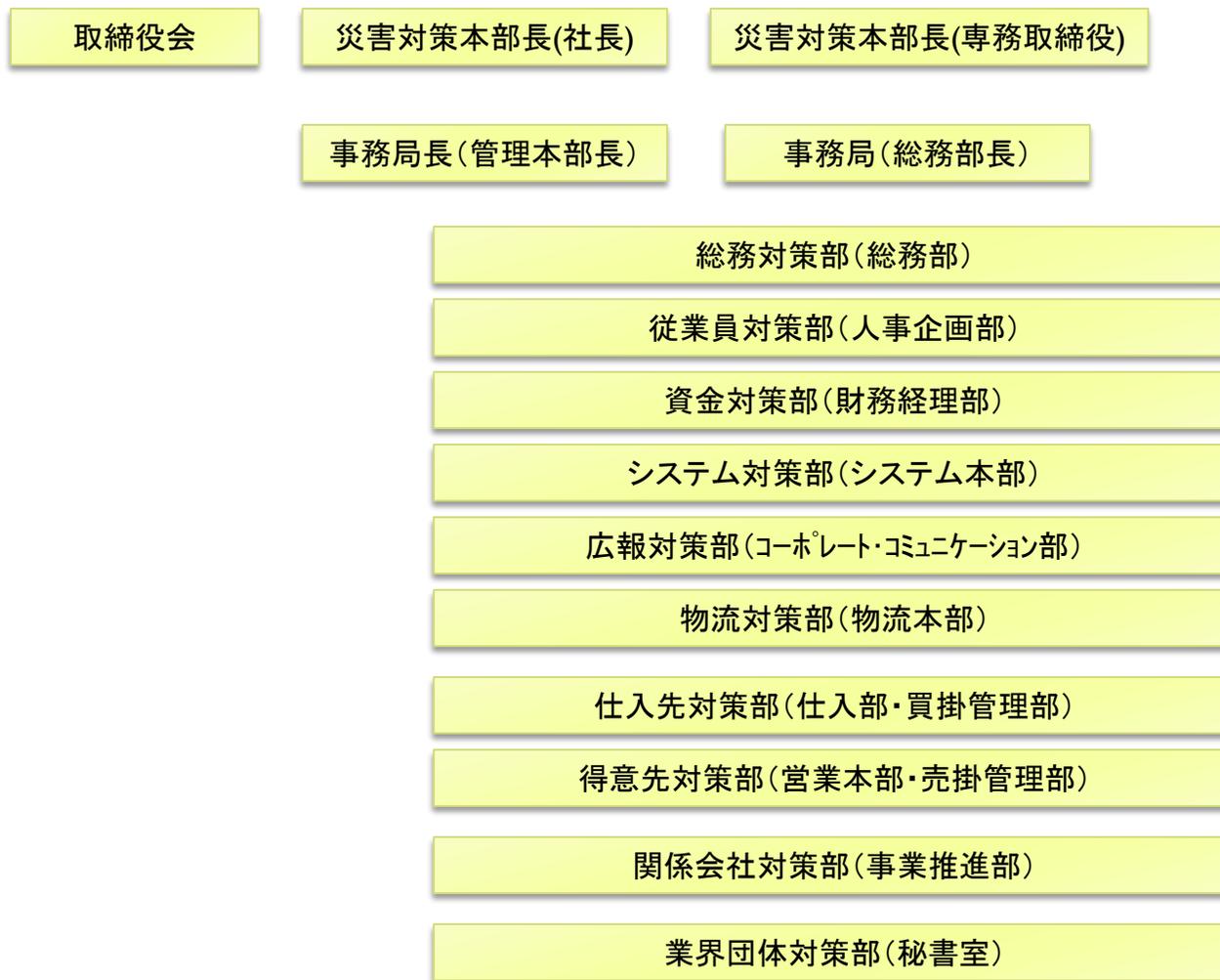
※2009年 新型インフルエンザレポート（2009年8月発行）

2009年8月に当社がエマージェンシーコール®ご利用のお客様向けに発行したレポートとなります。

2009年 新型インフルエンザ発生での
エマージェンシーコール®活用事例 Ver. 4

2009年8月 インフォコム株式会社
サービスビジネス部 営業グループ

災害対策本部組織（参考）



**【振り返りの追記】2009年
当時はBCP策定率も今ほ
ど高くはなく。
体制案を提案した。**

ステージ別アクションプラン

- ▶ アクションプラン対策の適応
 - ▶ 新型インフルエンザの基礎知識啓蒙
 - ▶ ワクチンの予防接種
 - ▶ 感染予防対策
 - ▶ 保護具と防疫資材調達
- ▶ 4つのステージでの安全対策
 - ▶ 家庭・・・知識教育、感染予防策の事前周知
 - ▶ 通勤・・・通勤代替え手段の検討と対応
 - ▶ 職場・・・衛生管理の強化、業務の見直し
 - ▶ 得意先・・・緊急時対応の確認

【振り返りの追記】ステージ別のアクションプランを提案。
家族やサプライチェーンもスコープに入れて検討。

家庭での対策

- ▶ リスクを知って備える
- ▶ 知識資料の配布
- ▶ 季節インフルエンザの予防接種
- ▶ 日頃からの感染予防（手洗い、うがい、マスク）
- ▶ 検温を習慣づける
- ▶ 人ごみを極力避ける

通勤形態の対策

- ▶ 感染の機会を低減
- ▶ 社有車、自家用車にて通勤する
- ▶ 駐車場を確保できない場合は、社員間で協力し同乗し出勤
- ▶ 代替勤務地、在宅勤務を考慮

職場での対策

- ▶ 水際対策 周囲への感染防止と事業継続
- ▶ 毎朝入社前に従業員等が行う検温と健康状態確認の義務付け
 - ▶ 38度以上の発熱、咳、悪寒、下痢などの発症者は入社禁止
 - ▶ 外来者が施設内に入る場合は、使い捨て体温計での検温
 - ▶ 訪問者には入退出時に氏名等のトレース情報を強制取得

- ▶ 建屋入口にアルコール消毒器と消毒マットを設置
- ▶ 咳エチケット用サージカルマスク着用の義務付け
- ▶ 1日数回の定時清掃・消毒を実施
- ▶ 廃棄されるごみは専用容器を使用し、改修の都度消毒を実施
- ▶ 感染の疑い者は
 - ▶ マスクを着用させ、別室へ誘導・隔離
 - ▶ 受け入れ病院の確認、状況把握。家族への連絡
 - ▶ 従業員の移動禁止と感染者への行動や接触の有無をトレース

得意先の対策

- ▶ 安全性の確保と社会的使命の遂行
- ▶ 感染リスクを考慮した防護具の着用
- ▶ 訪問受注から、電話受注などの変更

対策状況の通知と情報収集

- ▶ 目的 感染状況の告知と従業員の罹患・健康状態をトレース
- ▶ エマージェンシーコール[®]にて感染状況（警戒レベル）や健康状態に関する質問項目を送信
 - ① 全従業員・役員に海外でのヒト-ヒト感染発生突入を通知
 - ② 季節性インフルエンザ予防接種などの摂取状況をトレース
 - ③ 国内でのヒト-ヒト感染発生後、毎朝検温結果等の健康状態を入社前に必ず回答することを義務付け
 - 罹患疑いの者は、入社禁止、上司と連携し医師の診断を受ける

【振り返りの追記】既存各社ヒアリングより、毎朝の罹患情報チェックでエマージェンシーコールが多く利用されていた。

エマージェンシーコール[®]活用

- ▶ 自由に質問項目を作成し、社員状況のトレースを取得

◇質問回答欄

No	質問内容	回答
1	現在の状況	健康
2	体温チェック	38度以上
3	体調チェック	罹患症状あり
4	本日の出社	欠勤
5	連絡事項確認	(選択して下さい) 出社 欠勤 出張等で不在
6	フリーメッセージ	

回答



◇質問回答状況

No	質問内容	回答結果				
1	現在の状況	未回答 4名	健康 1名	自宅療養中 0名	入院中 0名	その他 1名
2	体温チェック	未回答 4名	平熱 1名	38度以上 1名		
3	体調チェック	未回答 4名	罹患症状なし 1名	罹患症状あり 1名		
4	本日の出社	未回答 4名	出社 1名	欠勤 1名	出張等で不在 0名	
5	連絡事項確認	未回答 4名	確認 2名	不明 0名		
6	フリーメッセージ	未回答 4名	回答 2名			

【振り返りの追記】エマージェンシーコール[®]の強みである、自由に質問を作成できる機能が活躍

◇質問回答一覧 (2件) ダウンロード

1/1ページ

ユーザID	氏名	質問回答内容					
		回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
94002	葉書 真一	その他	38度以上	罹患症状あり	欠勤	確認	(音声メニューからの質問回答)
99002	直江 兼統	健康	平熱	罹患症状なし	出社	確認	健康です。

1/1ページ

● 掲示板 [閲覧専用]

1/1 ページ

◇ 福岡県内の発生状況(7/30) **NEW!** 添付ファイルあり

日時 2009/08/31 18:02
 記載者 葉葦株式会社 + 総務部
 葉葦 真一
 本文 市内における新型インフルエンザ患者の集団発生について【PDF】(7月30日:外部リンク)
 (北九州市保健福祉局保健衛生課)

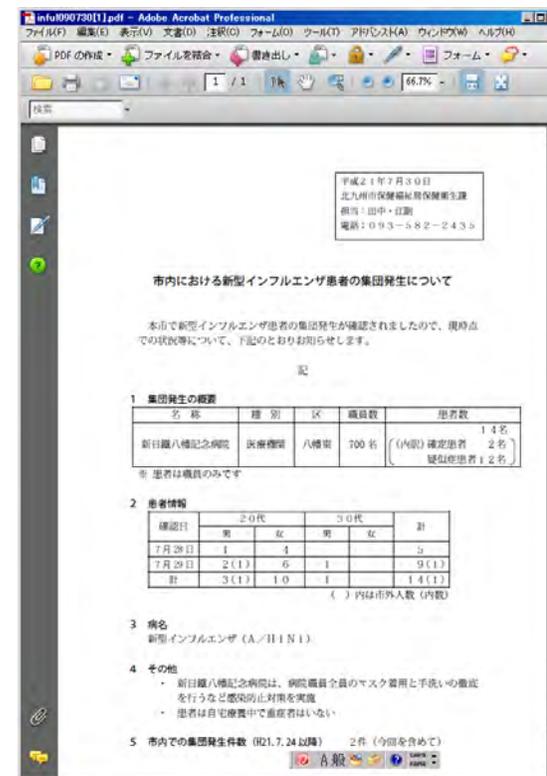
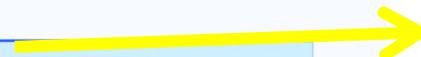
◇ 厚生労働省ホームページ

日時 2009/07/07 22:04
 記載者 葉葦株式会社 + 総務部
 葉葦 真一
 本文 最新の状況が確認できます。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/index.html>

◇ 連絡事項

日時 2009/07/07 22:08
 記載者 葉葦株式会社 + 総務部
 葉葦 真一
 本文 人ごみをなるべく避け、手洗い、うがいを実施ください。社内の会議室、食堂など集合形式の施設の使用は禁止となっています。また、罹患の疑いがある場合は、各自治体の発熱センターへ電話相談し、しかるべき処置をとってください。また、随時状況を上司に連絡して下さい。

1/1 ページ



【振り返りの追記】現在はBCPortalでより有効な活用が可能であるが、2009年当時はエマージェンシーコール®の掲示板機能にて各社情報共有を実施した。

2.導入各社の新型インフルエンザ対応

- ▶ **対策本部**を設置し、社内通知を実施
- ▶ **情報収集**の本格化
 - ▶ ヒト-ヒト感染情報、地域別流行状況、社内のモニタリング
- ▶ **情報発信**の本格化
 - ▶ エマージェンシーコール[®]を使つての周知と確認者の把握
 - ▶ 国内出張禁止、海外駐在員の帰国指示、会議室利用制限、訪問客への対応
- ▶ **予防対策**
 - ▶ マスクの配布、エマージェンシーコール[®]を使つての毎日の体調報告、社内消毒
- ▶ **感染拡大防止対策**
 - ▶ 感染疑い者への出勤停止指示
- ▶ **BCP(事業継続計画)の実行**
 - ▶ シフト制の導入、宿直者へのホテル手配

【振り返りの追記】2009年当時の各社の活用例。
現在でも参考とすべき要素が多くある。

3. 新型インフルエンザ発生状況とエマージェンシーコール[®]活用①

	2009/4/25 (土)	2009/4/27 (月)	2009/4/29 (水)	2009/5/1 (金)	2009/5/3 (日)	2009/5/5 (火)	2009/5/7 (木)	2009/5/9 (土)	2009/5/11 (月)	2009/5/13 (水)
WHOフェーズ	3	3 → 4	4 → 5	5	5	5	5	5	5	5
状況	豚インフルエンザ アメリカ、メキシコで流行の兆し？ メキシコで死者60人！	国内機内検査開始 史上初の感染症危険情報	米国初の死者	帰国した横浜 高校生従来型				・国内日本人感染 ・感染が確認された3人は隔離入院	帰国者 陽性反応	
国内感染者数	0	0	0	0	0	0	0	0	3?	4?
A社 (金融関連)								全社員 約2万名に注意喚起の通報を実施		
B社 (サービス業)										
C社 (サービス業)			注意喚起通報 (2万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 本調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)
D社 (化学)				注意喚起通報 (1万人)	管理職向け 注意喚起通報	注意喚起通報 (1万人)		管理職向け 注意喚起通報		
その他										【インフォコム】緊急サポート体制を引く

【振り返りの追記】「水際対策の徹底指示」、豚インフルで首相。厚労省 帰国者の健康確認。
2009/4/27日経新聞朝刊より

【振り返りの追記】連日、ニュースのトップで放送。2009/5/9の初の感染者確認のニュースは日本でも発生したと衝撃が走る。

【振り返りの追記】国内罹患者発生からインフォコムでは問い合わせ窓口を24時間緊急サポート体制を引いて対応。

4. 新型インフルエンザ発生状況とエマージェンシーコール[®]活用②

	2009/5/15 (金)	2009/5/16 (土)	2009/5/17 (日)	2009/5/19 (火)	2009/5/21 (木)	2009/5/23 (土)	2009/5/25 (月)	2009/5/27 (水)	2009/5/29 (金)	2009/5/31 (日)	
WHOフェーズ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
状況		<p>・国内での感染による日本人感染 ・大阪府・兵庫県で次々と感染者が確認</p>		兵庫県・大阪府を中心に感染拡大	東京都が感染確認(5/20) 京都府が感染確認(5/21) 国内感染者は累計で291人			静岡県が感染確認(5/26)			
国内感染者数	?	1	1	100名以上	291	314	343	354	370	378	
A社 (金融関連)		関西在住の社員 約5千人に注意喚起の通報を実施									
B社 (サービス業)		関西在住の社員 約5千人に注意喚起の通報を実施									
C社 (サービス業)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人) 関西在住社員へ緊急通報	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	毎朝 体調確認通報 (1万人)	
D社 (化学)		管理職向け 注意喚起通報	注意喚起通報 (1万人)			管理職向け 注意喚起通報				管理職向け 注意喚起通報	
その他											

【振り返りの追記】「高校 緊急の全校集会」、校長「対策取ったが」生徒ら現地でマスクせず。新型インフル 初の確認
2009/5/16日経新聞夕刊より

【振り返りの追記】新型インフルエンザの爆発的な流行街からマスクがなくなる。インフルエンザワクチンも枯渇。

5.通報実施内容事例 その1

▶ 全社一斉連絡

実施日時	2009/05/17(日) 正午より実施（関西で流行発生）
メッセージ内容	こちらは〇〇〇総務部です。神戸市を中心に新型インフルエンザの二次感染が確認されました。新型インフルエンザ症状に疑いのある方は、月曜日からの出社を控えるようにお願いします。 また、関西での対策本部は大阪総務部となっております。質問、連絡は大阪総務部 電話XXX-XX-XXXXまでお願いします。
連絡方式	緊急連絡方式
連絡媒体	携帯電話/固定電話/メール/FAX
対象ユーザ	関西圏勤務者 約5,000名
繰り返し設定	30分間隔で3回リトライ
回答率	約95%

日曜日であったがBCP担当者が自宅から通報を実施

【振り返りの追記】ヒトーヒト感染のニュースから、日曜日であったが関西勤務者5,000名に注意喚起連絡を実施。

6.通報実施内容事例その2

【振り返りの追記】毎朝、罹患確認連絡を実施

▶ 毎朝実施の注意喚起連絡

実施日時	入社前の早朝
メッセージ内容	こちらは〇〇〇です。本日の出社に関し、注意喚起と各自の体調チェックを実施します。各自、現在の状況を申請ください。また、通勤時のマスク着用、及び手洗いうがいを実施し予防措置の徹底をお願いします。回答は午前9時までには必ず実施ください。
連絡方式	質問連絡方式 ①本日は出社しますか。Yes/No/休暇/出張/その他 ②38以上の熱はありますか。Yes/No ③新型インフルエンザ罹患の疑いがありますか。Yes/No ④質問事項が有りましたら登録ください。フリー回答
連絡媒体	メール
対象ユーザ	全社員 10,000名
繰り返し設定	30分間隔で3回リトライ
回答率	約92～98%

毎朝実施することで密な情報伝達/取得が可能
予約通報機能により予めセットした時間になると自動発報される

【振り返りの追記】管理職に絞って、
罹患者発生時の対応を再周知

7.通報実施内容事例その3

▶ 管理職向けの注意喚起連絡

実施日時	主に休日、土曜日、日曜日に実施
メッセージ内容	<p>全管理職へ連絡します。 休日中での新型インフルエンザ発生に関する社内ルール再確認をお願いします。</p> <p>休日、夜間に部下から罹患連絡が入った場合は、各自治体で開設されている発熱センターへ事前に電話連絡を取り、相談するよう指示してください。また結果については必ず上司に連絡するよう徹底させてください。 各管理職は対策本部 電話 XXX-XXXX-XXXXまで、状況報告を実施ください。</p>
連絡方式	緊急連絡方式
連絡媒体	携帯電話/固定電話/メール/FAX
対象ユーザ	管理職のみ抽出して対象ユーザを絞り込み
繰り返し設定	
回答率	約100%

週明けに状況が変化するケースを想定し、土日に管理職のみ通報を実施
 部下からの連絡対応、出社対応などを再度周知させた

※ メッセージ内容は一部お客様情報が入っている為に修正してあります。

8. エマージェンシーコール[®]最大の活用

- ✚ 新型インフルエンザ発症、流行に関する情報は患者が昼間に受診するケースが多いことから、夜間に発表されるケースが多いです。
- ✚ 夜間、休日だと社内メールなどの連絡では十分に連絡が取れません。
- ✚ エマージェンシーコール[®]は、即座に個々の社員へ連絡が出来ることから新型インフルエンザでも多くのお客様に活用されています。

9.各社の評価

- ▶ 「地震を想定した通報訓練は実施していたが、新型インフルエンザでも問題なく利用できた」（金融）
- ▶ 「罹患したと登録した社員に二次通報を実施し、誤登録であったことを即座に確認でき、情報の混乱を防ぐことができた」（製造業）
- ▶ 「即座に対応マニュアルを送付してもらい混乱を回避できた」（運輸、製造メーカーなど多数）
- ▶ 「秋に強毒化すると言われているので、これに備えて準備を整える」（住宅サービス）

10. 今後の危機管理対応

【社内通達の徹底】

- ▶ 新型インフルエンザが小康状態に向かい気が緩みがちになりますが対応の管理徹底を実施することが重要

【エマージェンシーコール活用】

- ・毎週1回、注意喚起の通報を全社員に実施

【2009年 秋の強毒化懸念】

- ▶ 強毒化した場合の危機管理体制再確認
- ▶ 季節性インフルエンザ流行時の対応、同様の対策？

【エマージェンシーコール活用】

- ・通報訓練と罹患者が出た場合のシミュレーションの実施

【パンデミック期での再規模自然災害発生】

- ▶ 新型インフルエンザ流行時、同時に大規模地震が発生した場合の対応を確認

【エマージェンシーコール活用】

- ・安否確認通報の確認、新型インフルエンザでの通報の確認
- ・同時に通報した場合の対応確認

【振り返りの追記】新型インフルエンザ対応後の新たなリスクマネジメントを各社が検討

考察

1. 厚生労働省、内閣官房のメッセージを全社で確認

→ 情報収集はしっかりと実施するも連日の報道に惑わされないようにする。

ネガティビティ・バイアス negativity bias に注意:

一度悪いイメージをもってしまうと、なかなかその印象を覆すことは難しい。最悪の状況しか見えなくなる。

2. 2009年の新型インフルエンザ対応は社会が混乱。

→ 2020年新型コロナウイルスは危険度が低く、通常の風邪・インフルエンザ対応で問題ないが、自社社員/職員の罹患時の対応はあらかじめ決めておく必要がある。

インフルエンザ罹患者のルールを再徹底。

3. エマージェンシーコール[®]、BCPortalは予め想定テンプレートを作成し、いざというときにすぐに運用できるように準備しておくことをお勧めします。

地震対応だけでなく、まずは下記の定型通報を設定、いざというときにすぐ使えるようにしておく。

① 罹患者発生情報の連絡

◆メッセージ:「〇〇〇部署の〇〇さん(名称は可変に)の新型肺炎を疑う情報がありました。

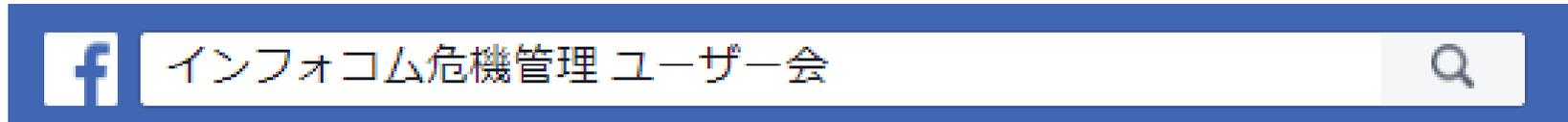
状況は「状況を記載」となっております。濃厚接触者に関しては「指示事項(在宅勤務など)」

指示しました。問い合わせは人事部にて受け付けます。また、情報アップデートは17時にエマージェンシーコールにて連絡します。」

◆対象: 全役員管理職、総務人事担当

◆連絡実施者: 人事部長

最新情報は、ご利用企業様限定Facebookグループに 随時アップしています。



Facebookから「インフォコム危機管理 ユーザー会」で検索し、参加申請ください。



ご不明な点がございましたら、 お気軽にご連絡ください。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-34-17 住友不動産原宿ビル

インフォコム株式会社

サービスビジネス事業本部 モバイルクラウド事業部

危機管理IoTソリューション営業グループ



URL:<http://www.infocom-sb.jp>

E-mail:emc-info@infocom.co.jp



緊急連絡/安否確認システム

エマージェンシーコール

情報管理ポータルシステム

BCPortal 